

地質標本館来館者アンケート結果概報 (2007-2014)

森尻理恵¹⁾・吉田清香¹⁾・朝川暢子¹⁾・下川浩一¹⁾・奥山康子¹⁾
佐藤隆司¹⁾・高橋 誠¹⁾・酒井 彰¹⁾・須藤 茂¹⁾・利光誠一¹⁾

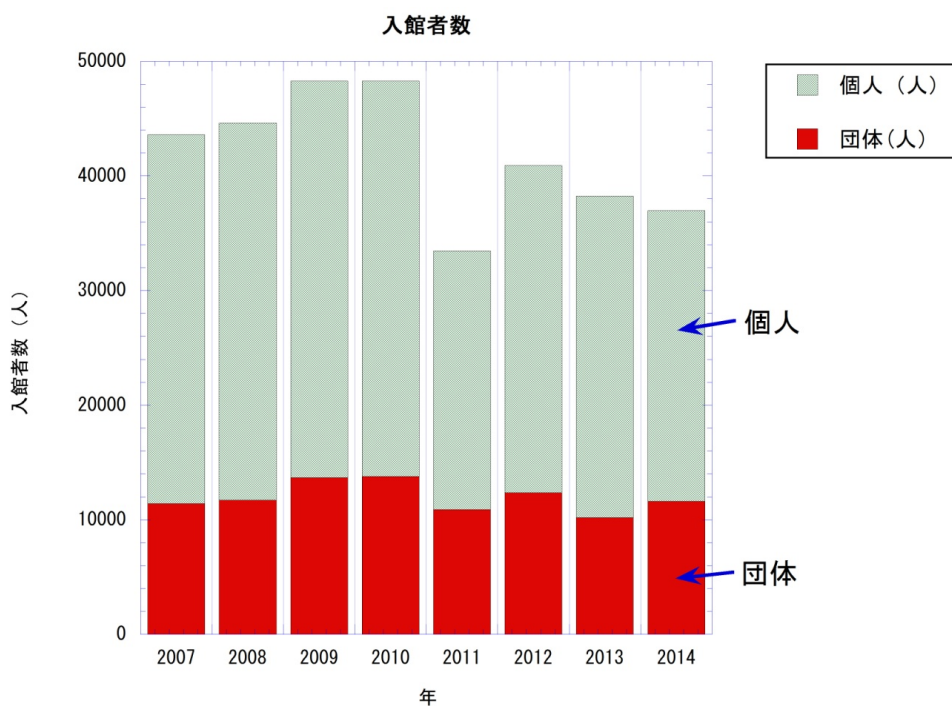
1. はじめに

地質標本館では2005年4月から、来館者の声をお聞きするために、アンケートをお配りしています(吉田, 2006)。アンケートは匿名で行い、いくつかの質問にお答えいただく部分と、自由にお書きいただく部分があります。入館者数は受付の方々によって整理され、吉田によって内部委員会向けに報告されてきました。一方で、アンケートは朝川によって整理されており、今まで内部向けの資料にさせていただいてきました。しかし、一般向けの資料として公表したのは、吉田(2006)が、2005年度の結果を紹介したのみでした。ここで2015年4月より地質標本館が新体制になりましたので、2007年から2014年までのデータを、吉田(2006)に倣って報告します。質問事項は若干変化していますので、新しいものに合わせています。

実際のアンケート結果の報告の前に、入館者数の変化を第1図、第2図に示します。東日本大震災のあった2011年は入場者数が減っています。第1図を見ると、団体のお客様は横ばいですが、個人のお客様が減っています。その中でも第2図を見ると茨城県内につくば市外からのお客様が2014年は2010年の約半分になっています。

アンケートの回収数が2012年から多くなっています。これは2011年までは入口に置いて、来館者の方に自分から手に取ってご記入いただく方式を取っていましたが、2012年より個人のお客様、また、団体のお客様の場合は代表の方に、受付時にアンケートをお渡しする方法に変えさせていただいたことに因ります。多くの貴重なご意見をお寄せいただき、お礼申し上げます。

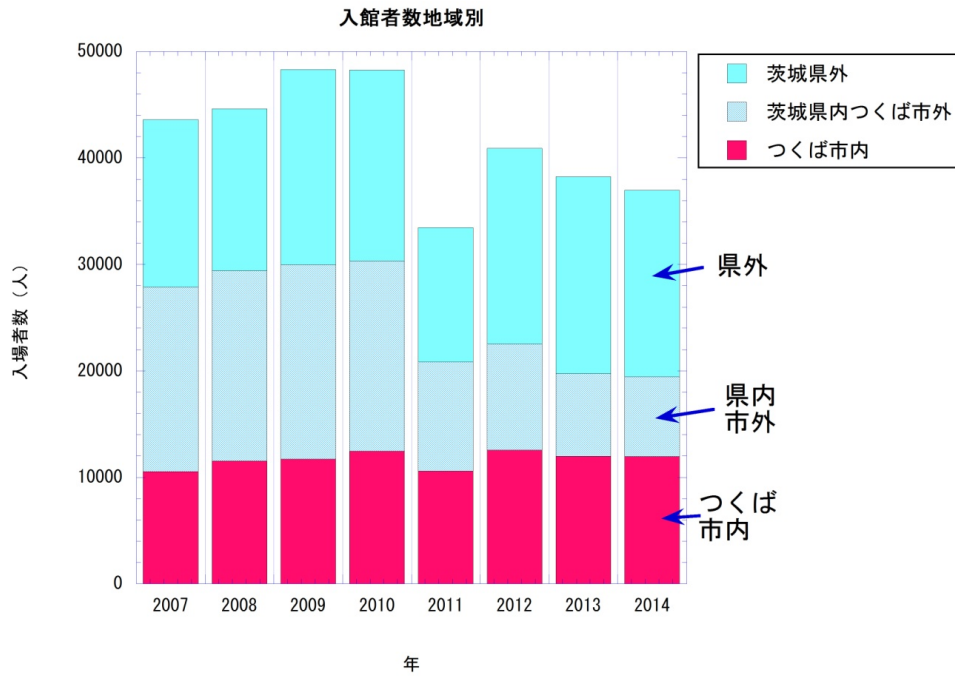
アンケートの回答のうち、自由記述欄にお寄せいただいたものについては、現在分析が進んでいますので、ここではそれ以外の項目を中心にデータとして紹介します。



第1図 2007年から2014年の入場者総数(受付調査)。

1) 産総研 地質調査総合センター 地質情報基盤センター

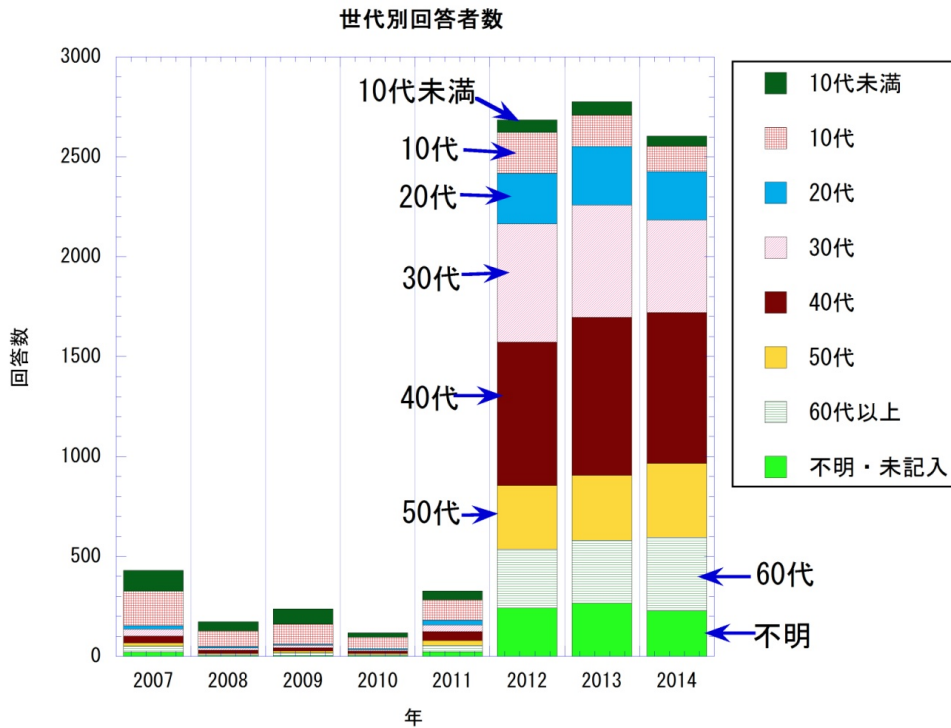
キーワード：来館者アンケート、地質標本館、2007年度-2014年度



第2図 2007年から2014年の入場者数地域別（受付調査）。

2. 問1 あなたの年齢・性別は？

アンケートの質問では性別も伺っていますが、ここでは世代別の回答者数のみを示します。



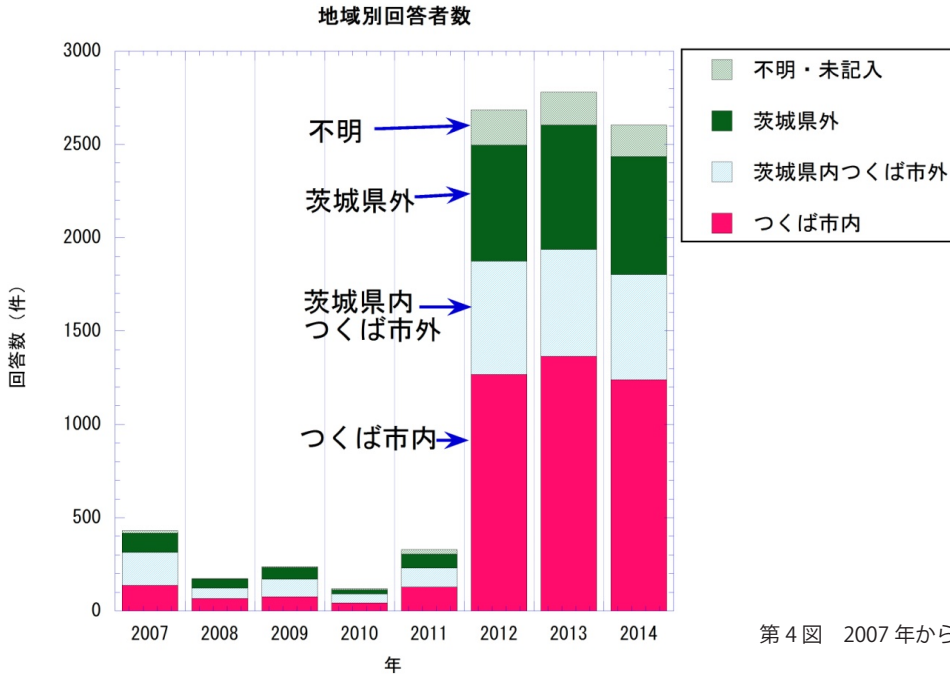
第3図 2007年から2014年のアンケート回答数（世代別）。

3. 問2 どこから来ましたか？

つくば市内，茨城県内つくば市外，茨城県外，記入なしの4つに分類しています。入場者全体については第2図

に示すとおりですが，アンケートの回答者となると，少し様子が異なります。

アンケートの質問では性別も伺っていますが，ここでは世代別の回答者数のみを示します。

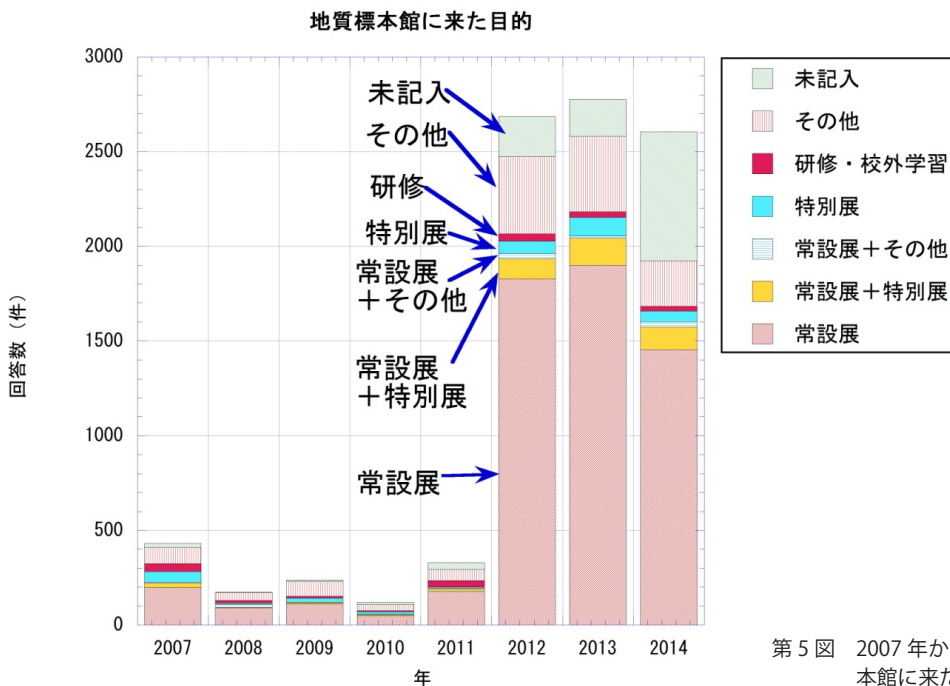


第4図 2007年から2014年のアンケート回答数(地域別)。

4. 問3 地質標本館に来た目的は？

これは常設展示，特別展示，その他でお聞きしています。夏休みなど季節によっても違います。「つくばちびっ子博士のスタンプを捺しに来た」という回答は夏休みに多くな

ります。「ツアーの一環」という回答も多いです。つくばは研究所が集まっている都市ですから，いろいろな見学ができる利点を生かして，ぜひ地質にも興味を持っていただきたいと思います。

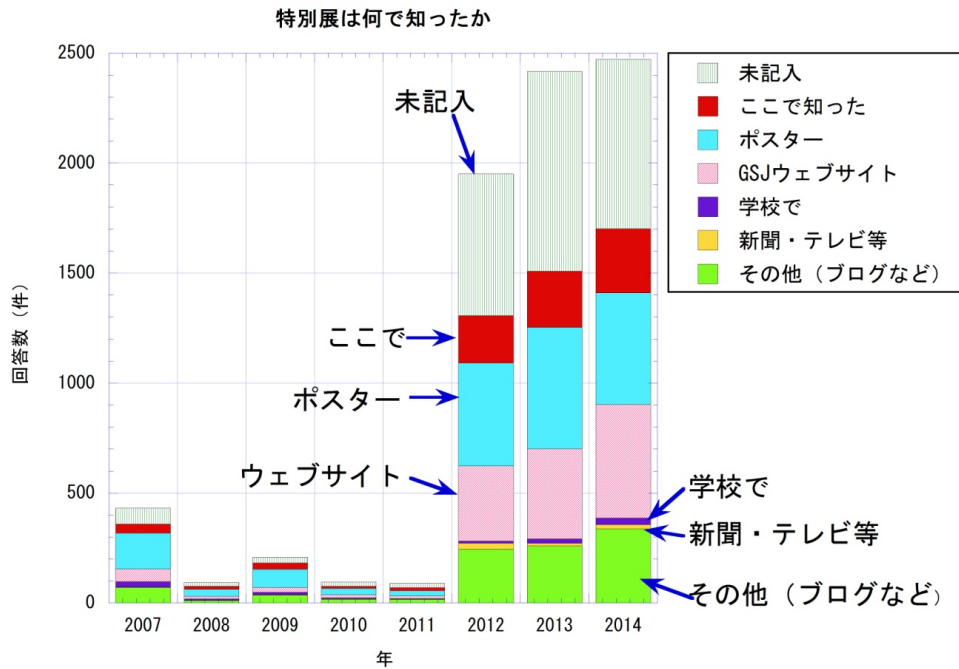


第5図 2007年から2014年のアンケート回答数(地質標本館に来た目的)。

5. 問4 特別展示は何で知りましたか？

特別展の広告は、主として地質標本館ウェブサイトで行っています。2009年11月の「日本石紀行」まではポスターを印刷し、各地の博物館、児童館、学校等に配って（306枚）掲示していただいていたのですが、その次の「揺

れる日本列島」以降は地質標本館の大型プリンターで20枚ほど出力してつくばエキスポセンター等に掲示していただくだけになりました。その結果、地質標本館のウェブサイトを見て、という回答が増えてきましたが、掲示ポスターを見て特別展を知ったという回答も同等数ありました。



第6図 2007年から2014年のアンケート回答数（特別展は何で知ったか）。

6. 問5 特別展をご覧になってどのように思いましたか？

これは単純に、面白かったか面白くなかったかでお聞きしています。第1表に特別展のタイトルと面白かったか

否かのデータを示しています。あいまいな表現のものはこちらで判断して振り分けさせていただいています。ただし、常設展示も含めての感想のようです。お答えいただいた理由については現在分析中です。

第1表 特別展は面白かったですか。

年	開催期間		特別展タイトル	面白かった	面白く なかった	その他・ 無回答	総数
2007	4/17	7/16	つくばの自然再発見－フィールド に行こう！－	60	3	18	81
	7/21	9/24	三宅島火山－その魅力と噴火の教 訓－	98	14	13	125
	9/26	12/2	デスモスチルス歌登標本 世界一 の全身化石発見から30年	68	2	8	78
	12/4	3/16	地質情報展2007北海道 探検！ 熱くゆたかなぼくらの大地(第I 期～第III期)	72	4	19	95
2008	3/19	6/29	青柳鉱物標本の世界	47	0	3	50
	7/26	9/28	地球の記憶を掘り起こせ！ 深海 掘削がさぐる地球の不思議－IODP 普及キャンペーン－	62	9	6	77

第1表 (続き)

年	開催期間		特別展タイトル	面白かった	面白く なかった	その他・ 無回答	総数
	12/16	3/1	地質情報展 2008 あきた	13	0	3	16
2009	4/14	7/5	五百澤 智也 山のスケッチとフ ィールドノート	58	6	5	69
	7/22	9/27	ジオパークへ行こう!	75	9	11	95
	11/17	1/11	日本石紀行ー写真家・須田郡司の 世界ー	21	1	2	24
2010	2/2	3/28	地質情報展 2009 おかやま ワク ワク発見 瀬戸の大地	11	1	8	20
	4/13	7/11	揺れる日本列島	11	3	7	21
	7/21	9/26	火山巡回展「有珠火山ーその魅 力と噴火の教訓ー」	23	4	13	40
	11/16	1/30	イーハトーブの石たちー宮澤賢 治の地的世界ー	19	1	2	22
2011	2/8	3/11	地質情報展 2010 とやま 海・山 ありて 富める大地 (春展は震災のため中止)	10	0	2	12
	7/21	9/26	巡回展「世界石紀行」	54	5	25	84
2012	1/24	3/25	地質情報展 2011 みとー未来に活 かそう大地の鳴動ー	7	0	6	13
	4/17	7/1	砂漠を歩いてマントルへ：中東オ マーンの地質探訪 Desert to Mantle: Exploring Oman's geology	35	3	11	49
	7/18	9/30	ミクロな化石で地球をさぐるー 微化石と地質調査ー	816	22	353	1191
2013	1/5	4/14	地質情報展 2012 おおさかー過去か ら学ぼう大地のしくみー	482	31	298	811
	4/16	5/31	火山巡回展「霧島火山」ーボラ (軽石)が降ってきた! 新燃岳 の噴火とその恵みー	437	15	140	592
	7/17	9/29	地球の恵み 地熱・地中熱エネル ギーを活用しよう	884	39	311	1234
	11/12	2/2	地質情報展 2013 みやぎー大地を 知って明日を生かすー	340	9	140	489
2014	3/4	6/29	地質の目でみる地震災害の連鎖	524	22	246	792
	7/14	10/13	地質アナログ模型の世界	789	23	267	1079
	11/5	3/22	地質情報展 2014 かがしまー火山 がおりなす自然の恵みー	387	20	193	600

7. 問6 今後どのような特別展を見たいですか？

こちらは自由回答となっています。複数回答をいただいている場合もあります。キーワードで集約した結果を第2表に示します。なお、キーワードは吉田(2006)に倣っています。

一応、第2表のように区分してみましたが、特にお子さんの回答ですと、鉱物と岩石、化石と恐竜は混同しているものも見られます。そこで、大体の傾向を見ると、最も希望が多かったものは2007年から2010年までは化石・恐竜、次いで宝石・鉱物でした。それが2012年からは地震・活断層・津波・火山・防災にあてはまるものが増えていま

す。アンケートの配布方式も変えて、大人の方の回答が増えたこともあるかと思いますが、地震や火山の噴火など大きな自然災害があると人々の関心が集まるのでしょうか。自由記述のご要望に、地震や火山の基礎的なところの解説がほしいというのがありました。これらはうまく常設展示にできないか現在検討中です。

恐竜の化石が見たいと言うご要望は特にお子さんから寄せられています。これについては、毎年のようにイベントホール等で大規模な恐竜展が開催され、商業的にも成功していることから、恐竜の根強い人気があるのでは

う。実は地質標本館入口には、恐竜と鳥との関係を知るうえで参考になるコンコラプトルという白亜紀の小型恐竜の全身骨格模型（登録番号GSJ F16346）が展示されているほか、第一展示室に始祖鳥のレプリカ（登録番号GSJ F07632）やアロサウルスの足跡のレプリカ（登録番号GSJ F15253）、クビナガリュウ（厳密には恐竜ではありませんが）の胃石（登録番号GSJ F16993 ほか）、恐竜のふん化石（登録番号GSJ F11414 ほか）、卵のレプリカ（登録番号GSJ F11413）もあります。ぜひ、ご覧ください。

第2表 今後どのような特別展が見たいですか（キーワードで集約，複数回答あり）。

キーワード	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
化石	64	43	36	7	40	106	94	60
恐竜	21	19	16	5	14	45	49	40
鉱物・宝石	48	21	22	9	38	98	111	95
岩石	9	9	4	3	10	45	42	25
地震・活断層・津波・防災	13	12	2	3	35	151	175	117
火山	9	3	2	0	1	20	36	49
資源	8	6	0	0	12	59	87	50
隕石	6	0	3	3	2	4	17	13
その他	29	8	21	12	18	101	153	143

8. 問7 ご意見, ご要望

展示についていろいろな御要望をお寄せいただきありがとうございます。地質標本館に課せられた役割と照らし合わせて今後の参考にさせていただきます。

多く寄せられるご意見のうち、「調整中が多い」という苦情があります。老朽化もありますが、なるべくきめ細やかにメンテナンスできるよう努力していきます。

また、駐車場が少ない、交通が不便、休憩場所がほしい、ミュージアムショップを充実させてほしい、等のご要望も多数ありました。しかしこれらは、地質標本館だけの努力ではどうにもならない部分があります。現在地質標本館では、産総研の制約の範囲内でオリジナルグッズや図録、ポスター等を販売している（産総研地質調査総合センター地質標本館）ほか、地質図類、データ集等も取り扱っています。

9. 最後に

地質調査総合センターでは「地球をよく知り、地球と共生する」を理念として研究活動を行っています。地質標本館はその中で、世間一般への窓口として、広報・普及活動の一端を担っています。地質標本館に展示されている標本数は第3表に示しています。これは当センターで収蔵しているもののごく一部です。地質調査総合センターが、「地質の調査」の研究成果を保証するために管理している登録標本には、岩石約10万点、鉱物約42000点、化石約18000点、国内鉱山の鉱石（約1400鉱山分）などがあります。これ以外に、整理作業中のもの（ボーリング試料、海外の鉱山試料、など）もあります。これらの標本は地質情報基盤センターのアーカイブ室で管理されており、地質標本データベース（産総研地質調査総合センター）としてウェブサイト公開されています。この膨大な研究試料が地質標本館を支えており、一般の方々がイメージされている

第3表 地質標本館内の展示標本概数の内訳（2015年7月3日版）. 総展示数は2200点以上になる.

	岩石	鉱物・鉱石	化石	現生	地層はぎとり
ロビー・屋外	60	70	20	0	2
第1展示室	60	40	180	5	1
第2展示室と 2F廊下	70	450	50	20	0
第3展示室	40	10	0	0	3
第4展示室	140	360	640	0	0
計	370	930	890	25	6

展示館とは性格が異なる組織となっています。ただ、地味ながら、本物を見ていただきたい、地球のことを知りたい、という地質調査総合センターからのメッセージを込めた展示を目指しているつもりです。ぜひ足を運んでいただきたく思います。

ごくごく一部ですが標本や模型、解説を通じて地球科学に触れる場として地質標本館が機能していけるよう、限られた環境の中でとなりますが、今後とも努力してまいります。

アンケートは引き続き行ってまいりますので、御来館の折にはどうぞご協力お願いいたします。

謝辞：標本点数のデータは産総研地質調査総合センター地質情報基盤センターアーカイブ室の角井氏よりいただきました。また2014年分のアンケートの集計には地質情報基盤センターの佐脇次長にもご協力いただきました。謝意を表します。

文 献

吉田朋弘（2006）平成17年度地質標本館来館者アンケート報告. 地質ニュース, no.620, 61-63.

参照ウェブサイト

産総研地質調査総合センター, 地質標本データベース
<https://gbank.gsj.jp/DFORM/> (2015年7月27日確認)
 産総研地質調査総合センター, 地質標本館ご利用案内
<https://www.gsj.jp/Muse/access/shop.html> (2015年9月9日確認)

MORIJIRI Rie, YOSHIDA Sayaka, ASAKAWA Nobuko, SHIMOKAWA Koichi, OKUYAMA Yasuko, SATOH Takashi, TAKAHASHI Makoto, SAKAI Akira, SUTO Shigeru and TOSHIMITSU Seiichi (2015) Results of the questionnaires for the visitors of the Geological Museum in FY 2007-2014.

(受付:2015年9月11日)